

村上地区 福祉活動計画 ヒアリング

日 時 平成 30 年 7 月 18 日（水）14：00～14：40

対象者 団体名：はまなすセンター（代表者：塚野相談員、鈴木施設長）

訪問者 鈴木優子、相馬智里

内 容

【地域の課題の中について、担い手不足にチェックがあるが？】

- ・介護分野ではケアマネが相談役になるように、障害分野でも基幹となる相談役が必要だが、障害者支援事業所がどんどん減っていつている。相談員の数が足りないと感じる。当センターでは市からの委託を受けているが、そうでないところからは業務内容と営利のバランスが悪いとの声も聞かれる。
- ・地域活動センターの利用においても、職員が少ないことから、どうしても平日は相談業務の比重が大きくなってしまい、活動は日・祝日に行うことが多い。同じ相談員がみな兼務でやっているのではやむを得ない状況。

【当事者理解が進まないことについて】

- ・特に精神障害者の理解が乏しく感じる。毎年2月に「こころの健康づくり講座」と題した障害者の理解普及を目的とした講座を開いているが、関係機関の参加はあるものの、一般の参加が少ない。
- ・特にそう強く思うのが、精神障害があるとアパートの契約を断られることがある。障害者のイメージが悪いのか、と感じることがある。
- ・障害者の居場所がない。精神障害者のためのグループホームを開設する計画もあるが、地域の理解が得づらいため場所探しに苦労している。自立が促進されない。

【解決のためには】

- ・住民同士の支え合いの中で、特に、障害者に対する意識の向上が必要と思う。そのためには、情報を得ていくことが大切だと思う。どうしても他人事として捉えがちで、当事者にならないと目を向けられない。障害者に対する興味、意識を持ってほしい。
- ・障害者が気軽に集まれる場。居場所が必要。朝日地区、山北地区の当事者は、センターを利用したいけど交通手段がなく来られない方も多い。山北地区では、月に1回すみれの会という地域交流会を開催しているが、地域の方との交流はない。

【村上市特有の課題について】

- ・障害分野の弱さ。制度はあっても、サービスがないこと
- ・就労、居場所、施設の少なさ。就労移行支援サービスの事業所がなくなったので、近いところだと胎内市まで足をのばさなければならない。中には新潟市まで通っている人もいる。今年度から市で交通費を補助してくれるようになったのでよかったが。
- ・居場所については、地域ごとに「茶の間」があるが、そこに参加することについては、人によって向き不向きがあるようだ。地域の受け皿がないところもあるので。しかし、利用できる選択肢が増えればよいと思う。
- ・市の障害窓口について。基幹となる相談窓口が欲しい。障害、高齢者、児童、窓口がばらばらなのでどこへ相談に行けばよいかわかりづらい。私たち相談を受ける立場の職員は、困難なケースを抱えていることがある。機関となる相談センターのようなところがあれば、一人で抱え込まずに共有しながら、支援の選択肢も広がっていくのでは。
⇒自立支援協議会の中でもよく話題にあがる。福祉の総合センターのようなものがあればよい。現在、市内では廃校が増えているので、それらを活用してみてもどうか？

【その他】

- ・地域そのものの意識を高めていく。ひきこもり問題やごみ屋敷予備軍となっているような家庭などが地域の中で点在している。福祉計画では、ぜひ複合的な視点を盛り込み、子どもから高齢者まで障害の有無に関わらず、どんな人でも安心して暮らしていける地域を目指してほしい。